

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200917
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム 小松原
所在地	宮崎県都城市小松原町1161番地3 (電話) 0986-26-0530
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 6 月 30 日

【情報提供票より】(平成21年 5月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	8.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(20,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(6月 13日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.6 歳	最低 75 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	マドコロ外科医院 柴田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地に病院の併設として建てられたホームは、近くに民家は少ないが、地域のふれあい祭に作品を出品したり、神社の夏祭りの参加や、灯籠に貼り絵をして奉納するなど、地域の人々と交流できるように取り組んでいる。また、公園の美化活動にも参加している。管理者は職員全員の研修を受ける機会を確保し、職員も積極的に受講し、サービスの質の向上に活かしている。併設病院の協力もあり、利用者は生き生きと落ち着いた共同生活を営まれている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画は本人や家族の意向を確認すると共に毎月のモニタリングを行うようになった。玄関の鍵については、時間を決めて開けるようにし前向きに鍵をかけない工夫の取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価に取り組み、日ごろのケアを振り返ることで評価の意義を理解し、改善にも取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2か月に1回開催し利用者や活動の状況、年間行事、評価への取り組み状況等について報告や話し合いが行われている。また、認知症やインフルエンザの予防対策等について説明を行い、ホームの理解を深める取り組みをしている。運営推進会議を通して、災害時には、公民館長の紹介で消防団長から協力を得られるようになった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族の出席があり、また、来訪時にも意見や改善して欲しいこと、不満等を聞き、家族の納得のいくように、即対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のふれあい祭に作品を出品したり、夏祭りでは、地域の人々と交流出来るように座席を用意してもらったり、灯籠を奉納するなどしている。今後も環境美化にも参加し交流や貢献出来るよう積極的な取り組みも期待できる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型事業所として地域への貢献、交流を盛り込んだ理念を大きくわかりやすく、玄関に明示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎日全職員で復唱し、その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のふれあい祭に作品を出品したり、夏祭りでは、地域の人々と交流出来るように座席を用意してもらったり、灯籠を奉納するなどしている。地域の環境美化活動にも参加し、交流や貢献の取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、日ごろのケアを振り返ることで評価の意義を理解し、改善にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催し利用者や活動の状況、年間行事、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いが行われている。認知症やインフルエンザの予防対策等についての説明も取り入れている。災害時には、公民館長の紹介で消防団長から協力を得られるようになり、ホームの理解を深める取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問や運営推進会議に市からの出席があるので、わからないことなど何時でも気軽に相談しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の利用料の納めや面会時に、日頃の生活の様子や健康状態、心身の変化など説明している。状態変化がある場合等はすぐに電話で報告している。また、金銭管理も一人ひとり出納帳に記載し家族のサインや押印を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の出席があり、また、来訪時にも意見や改善してほしいこと、不満等を聞き、家族の納得のいくように、即対応するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、職員や臨時職員を十分に確保し、新入職員と利用者が慣れるまで、二人体制で、より質の高いケアができるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加でき、また希望する研修がある場合は、勤務に支障がない限り受講できるようにしている。受講後は、報告書を作成して全職員が閲覧し捺印している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のブロック別研修会などに参加している。今年度は、地域の同業者ネットワークができたがまだ参加していない。	○	地域の同業者ネットワークの会合に、管理者、職員主任と交互に参加したい希望もあり、同業者との交流も含め期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	退院後からの利用開始は問題ないが、家族の事情で急に入居せざるをえなかった利用者に対して、その人に寄り添いながら自宅やデパート、ドライブに出かけるなど徐々にホームの雰囲気に慣れ親しめるように取り組んだ例はある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員で梅酒づくりや食材の準備など職員と協働の機会を持ち、喜怒哀楽を共にしながら、職員は、利用者から、生活の知恵、昔のならわし、物を大切にすること、方言などいろんな事を学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが利用者の毎日の暮らしぶりから、行動や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族や利用者説明を行い同意を得ているが、必要な関係者との話し合いは行われていない。	○	介護計画は、本人や家族に日頃の関わりの中で思いや意向を聞き、全ての職員がアセスメントを含め気づきや意見を出し合い、モニタリング、カンファレンスを行い、本人・家族の意向を反映して作成してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね6ヶ月に1回介護計画の見直しと、毎月のモニタリングをしている。利用者の心身の状態の変化見られる場合は、その都度介護計画の見直しを行っているが、介護計画の目標期間が記入されていない。	○	介護計画の期間設定をするとともに、少なくとも、3か月に1回の見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診や家族の状況に応じた通院など柔軟な対応、支援行っている。また、家族が自由に利用者の部屋に宿泊できる体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始時に本人や家族の希望するかかりつけ医を把握している。ホームに併設している医院がかかりつけ医の場合は、2週間に1度主治医の診察を受け、健康管理をする体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用契約時に重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針等を説明し同意を得ている。状態等悪化した場合はその都度状況に応じて主治医や家族等と話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの生活暦や性格、特徴を把握し、その人の能力を活かすような声かけや対応を心がけている。個人情報の記録等は所定の場所に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れにそって声かけしているが、利用者同士が誘い合ったり、一人ひとりのペース合わせゆったりとした暮らしの支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒になって盛り付けや準備をし、職員によるさりげない介助で、楽しみながら食事できている。また、毎食後の下膳、台拭きや茶碗拭きなどの片付けを利用者と一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	居室で週3回入浴しているが、時にはシャワー浴をしたり、利用者一人ひとりの好みの温度や時間を体調に注意しながら入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が全員で楽しめる輪投げやカルタ取りをしたり、おじゃみづくりや習字をする人、梅酒の梅の準備や洗濯物をたたむ人、利用者一人ひとりの生活歴や能力に応じて、職員が働きかけ支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の体調を見ながら散歩や買物に出かけたり、時には外食したりして気分転換やストレスが発散できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は病院と共有の駐車場になっているので、安全面を考慮し、時間を決めて玄関の鍵を開けるようにしている。外出の希望がある時は外に出られるように鍵をかけない工夫をしている。		安全面の問題もあるが、あきらめず、鍵をかけないケアの工夫に取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、地域の消防団員の連絡先を事務所に掲示し、年2回避難訓練を行い、何時でも消防団が対応できるようになっている。また、災害に備え、食料等の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師により栄養バランスを考慮し、利用者の状態にあわせた食事を提供し、一人ひとりの摂取量と体重を記録している。お茶や牛乳、コーヒーやスポーツ飲料水など、適量の水分摂取に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下に利用者の作品などが飾られた、明るく家庭的な雰囲気の中で、食堂はみんなが集まりゆったり過せる場所でもあり、利用者と職員の共同生活を営まれている様子が和やかであった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はバス、トイレ付きで畳敷きになっており、ベッドや布団、椅子、テレビ、タンス等使い慣れたものが自由に持ち込まれ、その人なりに落ち着ける場所となっている。		